



## バクって本当に夢を食べるの

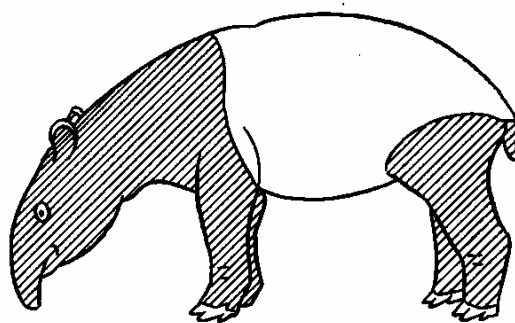
### 夢を食べるバクの話の本当は、マレーバク

動物園で見かけるバクには、アメリカにすむ茶色のバクと、マレー半島やタイなどにいる、どう体だけ白色で、あとは黒っぽいマレーバクがいます。どちらのバクも、ウマやサイに近い仲間、水辺にすみ、水草などを食べる、おとなしい動物です。

マレーバクのほうは、昔インドで、おしゃか様がお乗りになったところが、体の白い部分になったという、いい伝えがあります。このマレーバクが、昔からときどき中国に輸入されることがあったりして、実物をめったに見られないまま、ゾウの鼻と、サイの目、トラの足、ウシのしっぽをもった絵が描かれ、想像上のバクという動物ができていったようです。日本でも、昔、とても変なゾウの絵が描かれて、残っているのと同じでしょう。

### 夢を食べるのは想像上のバク

中国で、悪い夢を見た後、その悪い夢をいい夢に変えてくれる、想像上のバクというのが現れました。それがやがて、悪い夢を食べてくれる動物ということになっていったようです。そして、日本でも、江戸時代ごろから、初夢でいい夢を見るために、まくらの下に宝船の絵などを入れて寝るようになりました。その絵に、宝船といっしょに、「獺(バク)」という字を書くという習慣が広まったようです。もし悪い夢を見ても、バクが食べてくれるから安心ということだったのでしょ。(監修・今泉 忠明)



マレーバク

